

CASBEE京都-新築(2015年版)

(仮称)京都市上京区築殿町新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE京都-新築 (2015年版)

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE京都-新築2015 (v.1.0)

スコアシート		実施設計段階		重点項目に対する全国版評価基準の見直し		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等							評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質												
Q1 室内環境												
1 音環境								4.0	0.15	3.4	1.00	3.6
1.1 騒音								3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音								5.0	0.50	3.9	0.50	
1 開口部遮音性能						遮音性能=T-2等級以上		5.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能						界壁=RC180		-	-	4.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音								-	-	-	-	
2 温熱環境								3.0	0.35	3.0	1.00	3.0
2.1 室温制御								3.0	0.50	3.0	1.00	
1 室温								3.0	0.63	-	-	
2 外皮性能								3.0	0.38	3.0	1.00	
3 ゾーン別制御性								3.0	-	-	-	
2.2 湿度制御								3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式								3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境								3.0	0.25	4.0	1.00	3.6
3.1 昼光利用								4.2	0.30	4.0	0.50	
1 昼光率	●自然	A(全国版準用)				昼光率:住戸=2.0%以上 共用部=2.5%以上		5.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口								-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備	●自然	B(推奨内容)						3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策								2.0	0.30	4.0	0.50	
1 昼光制御	●自然	B(推奨内容)				カーテンと庇で昼光を制御		2.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度								3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御								3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境								3.6	0.25	3.7	1.00	3.6
4.1 発生源対策								4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質						内装材はほぼ全的にF☆☆☆☆を使用		4.0	1.00	4.0	1.00	
2 アスベスト対策								-	-	-	-	
4.2 換気								3.0	0.40	3.3	0.38	
1 換気量								3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能	●自然	A(全国版準用)				居室の1/8以上の開閉可能な窓を確保		-	-	4.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮								3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理								-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視								-	-	-	-	
2 喫煙の制御								-	-	-	-	
Q2 サービス性能								-	0.30	-	-	3.0
1 機能性								2.4	0.40	3.8	1.00	3.2
1.1 機能性・使いやすさ								3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性						Cat5E のケーブル採用		-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応								-	-	5.0	1.00	
3 バリアフリー計画	●大切	D(独自基準)						3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性								1.0	0.30	2.0	0.40	
1 広さ感・景観	●とも	C(独自加算)						-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース								-	-	-	-	
3 内装計画	●自然	D(独自基準)						1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理								3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計								3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保								3.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務								-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性								3.0	0.30	-	-	3.0
2.1 耐震・免震								3.0	0.50	-	-	
1 耐震性								3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能								3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数								3.1	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	●大切	A(全国版準用)				劣化対策等級3相当		5.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔								2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						床:シートフローリング、壁・天井:ビニルクロス		4.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔								3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔								3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔								2.0	0.20	-	-	

2.4 信頼性	1	空調・換気設備			3.0	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備			3.0	0.20	-	-	
	3	電気設備			3.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法			3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備			3.0	0.20	-	-	
	3 対応性・更新性				3.0	0.30	2.8	1.00	2.8
3 対応性・更新性	3.1 空間のゆとり				-	-	2.6	0.50	
	1	階高のゆとり			-	-	3.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)	-	-	2.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり				-	-	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性				3.0	1.00	-	-	
	1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出					2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮					3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上					3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制					3.0	0.20	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用					3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化					3.9	0.50	-	-	3.9
集合住宅以外の評価(3a.3b)					1.0	-	-	-	
集合住宅の評価(3c)					3.9	1.00	-	-	
LED照明設備の設置					3.0	0.20	-	-	3.0
4 効率的運用					-	-	-	-	
集合住宅以外の評価					-	-	-	-	
4.1 モニタリング					3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制					3.0	-	-	-	
集合住宅の評価					3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング					3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制					3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	3.4
1 水資源保護					3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水					3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					3.5	0.60	-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減					2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み					4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					4.0	0.70	-	-	
1 消火剤					-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)					5.0	0.50	-	-	
3 冷媒					3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮					4.3	0.33	-	-	4.3
2 地域環境への配慮					2.9	0.33	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					2.7	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減					3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制					3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮					3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-	
1 騒音					3.0	1.00	-	-	
2 振動					-	-	-	-	
3 悪臭					-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制					3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制					3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制					-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制					3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制					3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策					3.0	0.70	-	-	
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う「とも」:ともに使う「自然」:自然からつくる